

2023年10月18日(水)PM

団体力アップ賞活動報告

生態補償地 ・ 緑のオアシスづくり

keywords: 生息地保全(美化、配慮)、多様な生物と利用、生物季節、大発生予測

NPO法人自然環境観察会

代表理事 平井 一男

[NPO法人自然環境観察会 埼玉みどりのポータルサイト \(saitama.lg.jp\)](http://saitama.lg.jp)

[ホーム - nature-garden-walk ページ! \(jimdofree.com\)](http://jimdofree.com)

仲間と作る「自然」 美しい季節

NPO法人代表 平井 一男

(埼玉県 73)

都市に緑を取り戻し、生物のすみ環境を作りたい。そんな思いで4年前から住宅地や畑の一角に「緑のオアシス」と名付けて草花を植え、昆虫や鳥を数えている。その数は年間100種に及ぶ。現在は県内6市町7カ所で、約20人で活動している。

待望の春。仲間とオアシスに集い、花をめながら、今からカッコウが鳴き始める初夏までが一年中で一番美しい季節だねと談笑する。梅雨が明ければ、雑草との戦いである。早春はローズマリー、ユキヤナギ、

菜の花、ダイオウグミなどに、春盛りはウツギなどの花や若葉に、テン

トウムシ、ハナアブやカマキリが集まる。4月はジャコウアゲハがゆっくり飛びながら、食草のウマノスズクサに産卵。やや遅れて、アオスジアゲハがツバメのような速さでダイコン、カブやハーブに蜜を求め、ク

スノキの若葉に産卵し、飛び去る。「緑のオアシス」を手入れし、生物を調査してその記録を発行する。害虫類を発生させず、ご近所迷惑にならないように続け、他の地域にもオアシスを増やしていければと考えている。

朝日新聞声欄
2021.4.10

認定証

NPO法人自然環境観察会 様
(R2-73)



貴団体は、彩の国美緑づくり活動団体であることを証します。

令和2年12月14日

埼玉県知事 大野 元裕



NPO法人自然環境観察会とは ……定款より抜粋

- ・当NPO法人は、平成29年(2017年)1月27日に登記設立。
- ・令和5年4月1日現在の会員は22名。

会 員： 県内外の昆虫・鳥・植物の自然愛好者。

活動地： 上尾、桶川、久喜、宮代、熊谷、川口など。

第1条（事務所） 上尾、久喜

第3条（目的） 地域の自然環境における生物相の観察、調査により、自然環境の保全に寄与する。

団体名

特定非営利活動法人自然環境観察会

事業名

都市近郊に『緑のオアシス』づくりの手法を開発する

活動内容

生息地保全

観察・調査

広報環境学習



1. 活動内容

1. 緑のオアシス(生息地)づくり
2. 保全候補種の選定
3. 主要な生き物の保全 (上尾、桶川、久喜、宮代など)
 - ・ ナミテントウ (毎週1回午前中)
 - ・ アゲハ類
 - ・ キマダラカメムシ
 - ・ クモ類
 - ・ 鳥類
4. 環境学習・ワークショップ (広報活動)

2. 都市近郊に『緑のオアシス・生息地』づくり



2. 都市近郊に『緑のオアシス・生息地』づくり



空き地に『緑のオアシス』、餌・蜜源植物、約70種を植栽し、生き物を温存した。

生き物例:A、ハクビシン、モズ、キジバト

B、タヌキ、キジ、コジュケイ、モズ、キジバト、ウグイス

3 オアシスづくり

* 餌 と 蜜源植物の植栽

アオスジアゲハ



キバナコスモス



ユキヤナギ



ハルジオン

広葉マウンテンミント

ツマグロヒョウモン



ブッドレア



シヨカツサイ

ダイコン

コマツナ



ヒメジョオン



ヤナギキヌガサ

ツマキチョウ



ナヅナ



ボリジ



タヌキマメ



ペンタス



ネムノキ

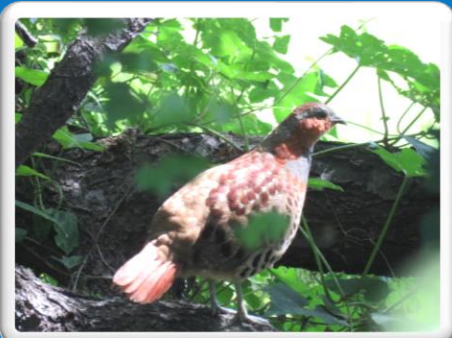


ムシトリナデシコ

4-1 保全対象の選定



トビ



コジュケイ



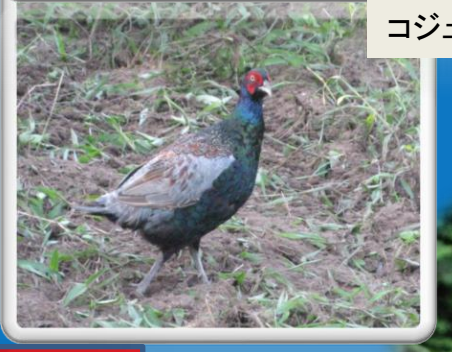
モズ



ウグイス



タヌキ



キジ



ナガサキアゲハ



ジャコウアゲハ



有害生物



オオトビサシガメ



ハクビシン



オオスズメバチ



アカタテハ



アゲハ



テングチョウ

一般の生物多様性



機能的生物多様性

図1. 身近な機能的生物多様性の範囲

(いやし効果、有用で、発生数多く、大きく観察しやすい、相互作用に富む生物を選定)

4-2 保全対象の選定



オニヤンマ

ギンヤンマ

オオシオカラトンボ

チョウトンボ

カナヘビ

タマムシ

ウスバキトンボ

キムネクマバチ

ヌマガエル

ナミテントウ

ササグモ・イトトンボ

キマダラカメムシ

アマガエル

ウヅキコモリグモ

コガネグモ

ジヨウグモ

オニグモ

機能的生物多様性

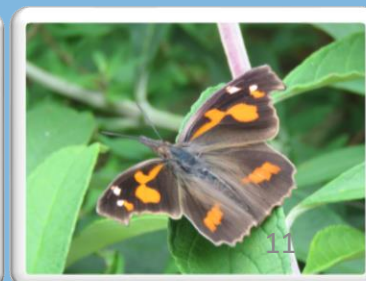
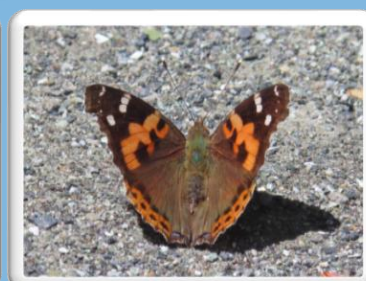
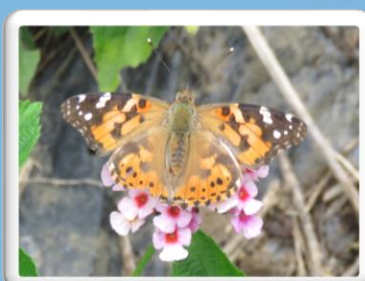
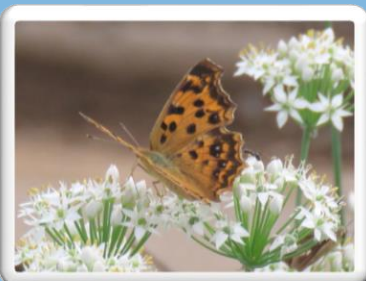
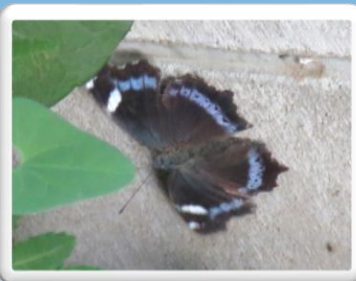
図2. 身近な機能的生物多様性の範囲 (いやし効果、有用で、発生数多く、大きく観察しやすい、相互作用に富む生物を選定)

5 生態補償地で保全したい候補(約50種)

ジャコウアゲハ (ウマノスズクサ)	アオスジアゲハ (クスノキ科)	アカタテハ (イラクサ科)	ヒメアカタテハ (キク科)
コムラサキ (ヤナギ類)	イチモンジチョウ (スイカヅラ科)	ルリタテハ (サルトリイバラ科、ユリ科) キタテハ (カナムグラ)	ムラサキシジミ ムラサキツバメ (アラカシ・マテバシイ) ウラギンシジミ
アキアカネ (空き地・沼沢)	チョウトンボ (空き地・沼沢)	イトトンボ類 (空き地・沼沢)	キタキチョウ (マメ科)
ツマキチョウ (シヨカツサイ)	テントウムシ (ローズマリ、タチヤナギ、ユキヤナギ・ダイオウグミ)	カマキリ、カブトムシ ムシヒキアブ類 キマダラカメムシ (サクラ、ハナミズキ)	鳥 類 (20種) ・ クモ類

*保全生物(ターゲット種) ; いやし効果、有害生物でない、象徴的、ゆっくり飛翔、定着性に富む。

*2022年度までにジャコウアゲハとテントウムシ、アオスジアゲハ、アゲハは定着、今後は下側のタテハ類の保全に着手する。



今後に向けて

- ・ 都市近郊に、『生態補償地』『緑のオアシス』づくりを続ける。
- ・ 候補種の安定保全・越冬法の改良、生物季節の調査、大発生予測を継続。
- ・ 成果は展示会、各種研究会、観察会、環境学習会、HP、広報誌などで公表。

御静聴ありがとうございました。